

哲學研究

第八卷第六册

第十八七號

大正二十六年一月一日發行

宋子の學……………文學士 浦川源吾	山鹿素行に於ける古學思想の發達(完)……………文學士 加藤仁平	綜藝種智院について……………文學士 高橋俊乘	道德獨特の實現方法……………文學博士 西晋一郎	彙報、新著紹介……………
-------------------	---------------------------------	------------------------	-------------------------	--------------

京都帝國大學文學部

京都哲學會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達セシガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究会ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

委員 京都哲學會役員

書記

	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
	植田	狩野	小西	高坂	澤村	高瀬	田邊	千葉	朝永	西田	野上	波多	深田	藤井	松本	務臺	米田	寶嚴	
	壽藏	直喜	重直	正顯	專太	武次	胤成	三十郎	幾多郎	俊夫	精一	康算	健治郎	三文三郎	理作	庄太郎	方夫		

事が出来佛教研究者にまりて實に近來の快著たるを失はない。誠に佛教の根本的研究は難中の難事業であるが、その難事業をしかも「小面倒な方面から進んで」原典批判の立場から公平に「巴利佛教の全野を開拓しよう」とせられ「居る著者に謹んで敬意を表する。妄評多謝。(本田義英)

(東京天地書房發行、菊版四二二頁、定價金參圓八十錢)

寄贈書籍雜誌

沈黙の自殺者

暁鳥 敏 著

香草社 發行

哲學雜誌、丁酉倫理講演集、心理研究、東洋哲學、教育研究、内外教育評論、學校教育、教育、教育時論、教育會、日本心理學雜誌、支那學、講座、

前 號 目 次

繪畫の優劣は如何にして可能なるか(三)	文學士 植田 壽藏
道 德 的 美	文學博士 深田 康算
綜合的統一について	文學士 三宅 剛一
コントの社會連帶思想	文學博士 米田庄太郎
パスカルの「賭」	小林太一郎
トレルチ逝く、講義題目、其他

告 會

- 一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居ノ節ハ直チニ其旨御報知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部内
京都哲學會
振替口座大阪參〇六六番

註 文 規 定

- ◎ 會員ニあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候
- ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
- ◎ 振替貯金にて御送金は(振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番)内外出版株式會社宛に願上候
- ◎ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すへきに付直に御拂込下され度候
- ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

册	數	定	價	郵	稅
一册	册	金	四拾錢	金	壹錢
六册	(前金)	金	貳圓四拾錢	不	申受
十二册	(前金)	金	四圓八拾錢	不	申受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十二年五月廿五日印刷納本
大正十二年六月一日發行

第八十七號 第八卷
第六册
京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會
右代表者 寶嚴方夫

不許複製
禁轉載

發行者 大谷仁兵衛
印刷者 村上勘兵衛
印刷所 京都西洞院通七條南入

發行所

京都市下京區西洞院七條南
内外出版株式會社

振替口座 大阪三二九五番
東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南
出張所 京都市京橋區加賀町十番地
販賣所 京都市神田區錦町一ノ一
内外出版株式會社

(東京) 東京堂 東海堂 北陸館
上田屋 至誠堂
(大阪) 盛文館 三文社
(神戸) 寶文館 川瀬書店
(京都) 共盛社 大盛社

土田杏村氏著

教育の目的及教育者

(自由教育論 下卷)

新刊

自由教育論

教育の目的論を閉却して其の方法論の細末に拘泥し過ぎたのが從來の教育であつた！併し目的の研究を忘れてどうして方法の考察が出来るか。
的論は教育學の中心的部分だ教育の目的は人生一般の目的に依存する。其れ故に教育學に最も重要ななる基本問題の研究は當然哲學の爲す可き仕事の範圍に屬する。
由教育は教育目的論の研究により始めて其の眞義を發揮する事の出来るものだ。

忽參版

自由教育論

上卷

奥判三百三十頁
總布美裝
定價貳圓參拾錢
送料拾九錢

奥判三百九十頁
總布美裝
定價貳圓六拾錢
郵稅貳拾壹錢

(大正五年四月六日)大正十二年五月二十五日印 刷納本
第三種郵便物認可(大正十二年六月一日發行)每月一回(日發行)

哲學研究 第八十七號

定價金四十錢 郵稅金壹錢

阪穴座日替振 社會式株版出外内 區京下市都京 下條七院洞西 所行發